

### Ⅲ 健康増進課

#### 1 健康づくり推進事業

##### (1) 「健康津軽21（第2次）」の推進

管内の早世の減少と健康寿命の延伸を目標に、住民主体の健康づくりを進めていく計画として平成13年度に「健康津軽21」を策定した。その後中間報告と見直しを経て、平成24年度に最終評価し、その結果、目標値に達した又は改善傾向にある指標の割合は全体の4割となっており、分野別では「歯の健康」、「こころの健康づくり」、「たばこ」に改善傾向が見られたが、「身体活動・運動」、「循環器病」、「がん」等に関する項目については、依然横ばいや悪化と評価された。この最終評価を踏まえて、平成25年度を初年度とする「健康津軽21（第2次）」を策定した。策定内容は、健康津軽21に引続き「肥満予防対策」、「喫煙防止対策」、「自殺予防対策」を重点課題として、以下3領域、12分野について取り組み、「管内市町村健康増進計画（第2次）」と連動させながら推進を図っていく。

##### ① 「生活習慣の改善」の領域

栄養・食生活、身体活動・運動、飲酒、喫煙、歯の健康の5分野

##### ② 「生活習慣病の発生予防と重症化予防」の領域

がん、循環器疾患、糖尿病、COPD（慢性閉塞性肺疾患）の4分野

##### ③ 「こころの健康」の領域

こころの健康、認知症、休養（睡眠）の3分野

##### (2) 津軽地域 地域・職域保健連携推進事業

当圏域は、働き盛りの人たちの健康課題の解決が喫緊となっていることから、市町村や保健所等で実施している保健サービスと職域で実施している保健事業について相互の連携を密にし、健康津軽21（第2次）計画における重点的な取組である生活習慣病の予防やメンタルヘルス対策について「津軽地域 地域保健連携推進協議会」を設置し関係機関と協議し、効果的な保健事業を推進するものである。

##### ア 津軽地域 地域・職域保健連携推進協議会

津軽地域保健医療推進協議会保健対策部会において開催した。

○実施日時：平成28年10月12日（木）15：00～16：30

○場 所：ラグリー

○出席者：27名（委員10名、オブザーバー6名（市町村）、事務局11名）

○内 容：①健康津軽21（第2次）計画における評価指標に係るデータ及び保健所における取組状況の説明

②話題提供—弘前市におけるがん検診受診率向上対策について—

③意見交換

イ 市町村・事業所における健康づくり研修会、支援

開催年月日	参加者	内 容 等
平成 28 年 7 月 1 日 (金)	平川市立猿賀小学校 小学生, 保護者, 教員 約 260 人	○講演「生活習慣病について知ろう」 講師 弘前保健所 技 師 三上貴瑛 技 師 岩谷香奈
平成 28 年 9 月 14 日 (水)	農林水産省 東北農政局 平川二期農業水利事業所 職員 17 人	○講話「生活習慣病について知ろう」 ①青森県における県民の健康保持に対する取組 ②生活習慣病と食生活の関係 講師 弘前保健所 主 査 久米田桂子
平成28年 11月30日 (水)	藤崎町立藤崎中学校 中学生 243人	○講話「喫煙防止教室～たばこを吸わないために～」 講師 弘前保健所 技 師 岩谷香奈 専門員 福嶋眞樹
平成29年 2 月10日(金)	黒石市老人クラブ連合会 会員 32人	○講話「生活習慣病について知ろう ～がん・循環器疾患・糖尿病・COPD～」 講師 弘前保健所 主 幹 山田淑子 技 師 成田亜希子

(3) 喫煙対策事業

「健康津軽21(第2次)」の今後の目指すべき姿と取り組みをもとに、喫煙による健康障害に対する予防意識の普及啓発及び受動喫煙防止対策の推進を図る。

ア 研修会・機会教育等実施状況

開催回数	日時	場所	内容	講師名	対象 参加人数
1	平成 28 年 7 月 1 日 14:20～ 15:20	平川市 立猿賀 小学校	1. 「生活習慣病について知ろう」をテーマに、生活習慣病の定義・発生機序・予防する生活習慣、たばこの有害物質、受動喫煙について講演。 2. 児童 2 名の一酸化炭素濃度を測定。	弘前保健所 技師 (保健師) 三上 貴瑛	児童 : 233 名 保護者 : 約 20 名 教員 : 数名
2	平成 28 年 8 月 11 日 10:30～ 11:50	大鰐町 中央公 民館	1. 「ストリートダンス」～元気 長生き NO SMOKING～というタイトルで、喫煙防止のストリートダンスを披露。 2. 血管年齢測定器やフードモデル、肺の模型の展示。肺年齢測定を実施。	1. ファンキース タジウム代表 岩淵 伸雄 氏 2. 弘前保健所 主幹 (保健師) 山田 淑子 技師 (保健師) 岩谷 香奈	参加成人 : 約 80 名

開催回数	日時	場所	内容	講師名	対象参加人数
3	平成 28 年 11 月 30 日 11:40～ 12:30	藤崎町 立藤崎 中学校	「喫煙防止教室～たばこを吸わないために～」をテーマにたばこの害について、たばこの依存性、友人に喫煙に誘われたときの断り方、受動喫煙について、藤崎町の健康とたばこについて講演。	弘前保健所 専門員（保健師） 福嶋 眞樹 技師（保健師） 岩谷 香奈	中学 1～3 年生 243 名

#### イ 空気クリーン施設・車の認証拡大

##### ①空気クリーン施設の認証状況の把握・情報提供

- ・管内市町村における空気クリーン施設・車の認証状況を把握し、各市町村へ情報提供を行った。

##### ②喫煙の健康被害に関する知識の普及・啓発、空気クリーン施設の PR

- ・空気クリーン施設、空気クリーン車に関するリーフレットの作成を行い、保育施設・教育施設や企業への PR の際に配布した。また、食品衛生協会の協力のもと食品衛生講習会の際に飲食店へ 466 部配布。

##### <保育施設>

藤崎町の保育施設（4 施設）において説明訪問を実施。

##### <事業所>

ひろさき健やか企業（23 企業）に対して、空気クリーン施設認証制度について弘前市健康づくり総合推進担当者同行のもと、訪問説明を実施。

##### <空気クリーン車>

各市町村へ市町村保健師活動報告会にて PR。

空気クリーン施設の現地調査の際、空気クリーン車の PR を実施。

新規認証数 空気クリーン施設：62 施設 空気クリーン車：116 台 累計 816 件

#### ウ 調査の集計・分析等

##### <産後の再喫煙調査>

- ・産後の喫煙状況が幼児健診の問診項目となったため、継続的に把握が可能であることを保健師活動打合わせで確認。

##### <空気クリーン施設における受動喫煙防止対策の調査>

- ・各施設での受動喫煙防止対策の現状・認識、課題を把握。

#### (4) 学生が発信！ピア（仲間）リーダー育成事業

中南地域は学生が多い地域であることの強みを活かし、喫煙対策を切り口に、若者目線の健康意識調査や市町村調査を実施し、大学生がピアリーダーとなって継続的な活動ができる体制づくりに取り組み、若い時期から「健やか力」を身につけられる環境づくりを推進する。

① 若者が実践！「健やか力」リサーチ事業

- ・弘前学院大学に委託し、市町村の喫煙対策自己点検票(以下点検票)を作成した。また、管内市町村に対し、学生が点検票を活用した聞き取り調査を実施した。
- ・自己点検調査の報告会(平成 28 年 12 月 13 日)

弘前学院大学において、学生 3 名、関係者 6 名の出席で報告会を開催した。

自己点検調査の結果：平均得点 55.1 点 (100 点満点)

最高得点：大鰐町 72 点 最低得点：41 点

② 学生が発信！ピア（仲間）リーダー育成事業

小・中学生を中心とした児童生徒が受動喫煙に関する知識を深め、「健やか力」を身につけることができる環境づくりを推進することを目的に実施した。

ア 受動喫煙防止ソングを活用した健康教育

- ・大鰐町成人式
- ・弘前市立津軽中学校
- ・弘前市立第三大成小学校
- ・弘前市立豊田小学校

イ コンソーシアム学生委員会「いしてまい」及び弘前大学人文学部学生との検討会

ウ 若者健やか力向上事業報告（コンパ de「健やか力」アップ！）

<開催日時> 平成 29 年 2 月 17 日（金）19:00～20:00

<開催場所> ヒロロ 4 F 市民交流ホール 80 名参加

<内 容> 実践報告、座談会、アトラクション

(5) 市町村等「健活」推進のための地域診断事業

平成 27 年度特定健診・レセプトデータ分析（国保分）

地域診断ツールの活用し、平成 27 年度特定健診データ(国保分)、レセプトデータを取りまとめ、がん・生活習慣病対策課及び市町村へ情報提供を行った。

(6) 市町村健康づくり活動への支援

ア 市町村健康づくり推進協議会等への参加

市町村	名称	委員	開催年月日	出席者	内 容
弘前市	弘前市健康推進協議会	オブザーバー参加	平成 28 年 6 月 27 日	工藤主幹	①27 年度事業報告 ②27 年度歳入歳出決算の承認 ③28 年度の計画案 ④28 年度歳入歳出予算案
黒石市	黒石市健康づくり推進協議会	所長	平成 28 年 6 月 29 日	山中所長 山田主幹	①平成 27 年度事業実績 ②平成 28 年度事業計画
平川市	平川市健康づくり推進協議会	所長	平成 28 年 9 月 27 日	山中所長 阿部主査	①「第 2 次 健康ひらかわ 21」の進捗状況について ②平成 28 年度健康づくり事業の進捗状況について
			平成 29 年 3 月 28 日	山中所長 阿部主査	①組織会（委任状の交付、会長等選出） ②健康づくり事業の実績及び計画について
西目屋村	西目屋村健康づくり推進協議会	所長	開催なし	—	—

市町村	名称	委員	開催年月日	出席者	内 容
藤崎町	藤崎町健康づくり推進協議会	所長	開催なし	—	—
大鰐町	大鰐町健康づくり推進協議会	所長	平成 28 年 5 月 18 日	山中所長 荒井技師 岩谷技師	①27 年度事業実績 ②28 年度事業計画 ③平均寿命を 1 歳延ばそうプロジェクトについて
			平成 28 年 10 月 11 日	山中所長 荒井技師	①平成 27 年度保健事業概要 ②平成 28 年度上半期保健事業実績報告及び下半期事業計画
田舎館村	田舎館村健康づくり推進協議会	所長	平成 29 年 3 月 21 日	山中所長	①村の健康状況と課題について ②その他
板柳町	板柳町健康づくり推進協議会	なし	開催なし	—	—

## 2 母子保健事業

### (1) 妊産婦支援体制整備事業

虐待の発生予防として、育児の孤立化、育児不安の軽減に努め、母子保健の側面から地域養育支援体制を整備することを目的とする。

#### ア 産後うつ病の予防対策推進事業

市町村及び医療機関に対し、産後うつ病質問票の普及を図り、併せて医師、児童相談所、市町村の児童福祉・母子保健関係者等関係機関との検討会を開催し、産後の抑うつ状態の早期発見を推進することを目的とする。

##### (ア) EPDS の市町村・医療機関への普及推進会議（母子保健ネットワーク会議と併催）

平成 28 年度版として更新した「ハイリスク妊産婦、未熟児等の連絡窓口担当者名簿」を市町村へ配付し、産後うつ病の予防や早期発見のための活用について、働きかけた。

##### (イ) ケース検討会議（要保護児童地域対策協議会）

医療機関で実施され、1 回出席（事例数 1 件）した。

#### イ 母子保健ネットワーク会議

保健・医療・福祉及び教育等関係者等により、市町村や関係機関が実施する母子保健対策の推進に係る協議・検討・研修を行い、地域保健との関係機関の連携体制整備を進めることを目的とする。

開催日時	場所	出席者	内容
平成 28 年 9 月 6 日 (火) 13:30～ 15:40	弘前大学 医学部附 属病院 5 階 大会議室	母子保健ネット ワーク会議 医療機関、市町 村、児童相談所、 保健所 計 35 名	(1) 講演 「母子保健における医療機関と地域保健の連携について」 講師 弘前大学医学部附属病院 周産母子センター准教授 田中 幹二 氏 (2) 情報交換 「各機関でのハイリスク妊産婦への対応、連携について」 助言 弘前大学医学部附属病院 周産母子センター准教授 田中 幹二 氏 (3) 周産母子センター見学

## (2) 女性健康支援事業

### ア 女性健康相談事業

女性がその健康状態に応じ的確に自己管理を行うことができるよう、気軽に相談できる体制を確立することにより、生涯を通じた女性の健康の保持増進を図る。

- ・相談件数：4件
- ・相談内容：不妊相談4件(不妊専門相談センターへの紹介3件)

### イ 特定不妊治療費助成事業

不妊治療のうち、体外受精及び顕微授精については、1回の治療費が高額でありその経済的負担が重いことから、治療費の一部を助成し経済的負担の軽減を図る。

- ・治療費助成承認件数：191件

## (3) 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業

小児慢性特定疾病児童等に対して、適切な療育を確保するために、その疾病の状態及び療育の状況を随時把握すると共に、その状況に応じた適切な指導を行い、日常生活における健康の保持増進及び福祉の向上を図る。

### ア 小児慢性特定疾病医療受給者証交付と指導指示の状況 (人)

番号	疾病区分	交付数	医療意見書中指導指示有の件数
01	悪性新生物	38	1
02	慢性腎疾患	14	0
03	慢性呼吸器疾患	12	0
04	慢性心疾患	67	0
05	内分泌疾患	71	0
06	膠原病	10	0
07	糖尿病	21	0
08	先天性代謝異常	9	0
09	血液疾患	15	0
10	免疫疾患	2	0
11	神経・筋疾患	17	0
12	慢性消化器疾患	18	0
13	染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群	5	0
14	皮膚疾患群	1	0
	計	300	1

### イ 療育指導

(ア) 所内相談 ①新規交付時面接相談：39件 ②随時相談：2件 ③電話相談：1件

(イ) 訪問指導 2件

#### (4) 小児慢性特定疾病医療受給者証交付状況

治療が極めて困難で長期にわたる小児の特定疾患についての治療研究を推進し、その医療の確保と普及を図るとともに、患者家族の医療費の負担軽減を図るため、当該小児に対し小児慢性特定疾病医療受給者証を交付している。

(人)

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	計
	悪性新生物	慢性腎疾患	慢性呼吸器疾患	慢性心疾患	内分泌疾患	膠原病	糖尿病	先天性代謝異常	血液疾患	免疫疾患	神経・筋疾患	慢性消化器疾患	染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群	皮膚疾患群	
弘前市	20	9	10	40	50	6	10	7	7	1	11	9	1	1	182
黒石市	4	2	1	8	11	0	6	1	3	0	2	4	3	0	45
平川市	6	1	0	10	2	2	3	1	3	1	3	1	1	0	34
西目屋村	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
藤崎町	3	0	0	2	3	1	0	0	1	0	0	2	0	0	12
大鱒町	4	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	8
田舎館村	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	4
板柳町	1	1	1	3	4	1	1	0	0	0	0	1	0	0	13
合計	38	14	12	67	71	10	21	9	15	2	17	18	5	1	300

#### (5) 小児慢性特定疾患児手帳（ひまわり手帳）交付事業

小児慢性特定疾病医療費助成制度の公費負担を受けている児童に対し、本人の健康状態の記録・かかりつけ医療機関の連絡先等を記入できる手帳を交付し、患児の福祉の増進に寄与している。

(人)

疾患群	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	計
	悪性新生物	慢性腎疾患	慢性呼吸器疾患	慢性心疾患	内分泌疾患	膠原病	糖尿病	先天性代謝異常	血液疾患	免疫疾患	神経・筋疾患	慢性消化器疾患	染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群	皮膚疾患群	
手帳															
28年度	6	3	3	9	10	4	1	1	2	1	3	1	0	0	44

(6) 先天性代謝異常等検査

フェニールケトン尿症等の先天性代謝異常、先天性甲状腺機能低下及び先天性副腎過形成症は、放置すると知的障害などの障害をきたすため、新生児期に血液によるマス・スクリーニング検査を行い、異常を早期に発見することにより、後の治療とあいまって障害を予防することを目的に実施している。

医療機関への受診の有無を確認し、速やかに受診していることを確認した。保健所から保護者への受診勧奨が必要なケースは無く、要精検者は1ヵ月以内に精密検査受診していた。

(弘前市：3件、藤崎町：1件、板柳町：2件/全6件)

(7) 妊婦連絡票等実施状況（平成28年度妊産婦情報共有システム実施状況報告より）

安全な妊娠、出産環境を構築し、子どもの健全な育成に資するため、医療と保健の連携体制の一層の充実強化を図ることにより、妊娠初期から産褥期まで、妊産婦及びその家族に対し一貫した支援を行うことを目的として、妊産婦情報共有システムが構築されている。

市町村別	妊娠届出数 (A)	妊婦連絡票提出数 (B) (B÷A)	妊婦保健指導報告書発行数 C (C÷B)	指導方法合計	窓口指導	訪問指導	電話指導	その他	要連絡・指導妊産婦連絡票受理数 (D)	妊産婦保健指導結果連絡票発行数 (E) (E÷D)	妊婦連絡票の提出はないが、保健指導をした数 (F) (F÷A)
弘前市	1,157	1,149 (99.3)	1,155 (100.5)	1,155	1,148	0	7	0	79	74 (93.7)	7 (0.6)
黒石市	187	182 (97.3)	184 (101.1)	184	184	0	0	0	13	14 (107.7)	5 (2.7)
平川市	149	148 (99.3)	148 (100.0)	148	134	1	12	1	16	12 (75.0)	6 (4.0)
西目屋村	6	6 (100.0)	6 (100.0)	6	5	1	0	0	1	0 (0.0)	0 (0.0)
藤崎町	102	102 (100.0)	102 (100.0)	102	97	0	4	1	5	5 (100.0)	0 (0.0)
大鱈町	39	37 (94.9)	37 (100.0)	37	33	0	4	0	1	1 (100.0)	2 (5.1)
田舎館村	49	49 (100.0)	49 (100.0)	49	45	0	4	0	4	3 (75.0)	0 (0.0)
板柳町	72	72 (100.0)	72 (100.0)	72	69	0	3	0	5	3 (60.0)	9 (12.5)
計	1,761	1,745 (99.1)	1,753 (100.5)	1,753	1,715	2	34	2	124	112 (90.3)	29 (1.6)

(8) 未熟児等訪問指導状況（平成28年度未熟児等情報共有システム実施状況報告より）

未熟児は、その未熟児性から疾病にもかかりやすく、心身の障害を残すことがあり、未熟児を養育する保護者の不安等も強いことから、未熟児等訪問指導を通じて養育支援を適切に進めるために関係機関との情報共有、連携体制の構築を図る。



市町村名	低出生体重児数	(再掲)未熟児養育医療申請数	未熟児等出生連絡票受理数	在胎週数別出生時体重															未熟児等訪問指導連絡票発行数
				～34週未満					妊娠34～37週未満					妊娠37週以上					
				1,000g未満	1,000～1,500g未満	1,500～2,000g未満	2,000～2,500g未満	2,500g以上	1,000g未満	1,000～1,500g未満	1,500～2,000g未満	2,000～2,500g未満	2,500g以上	1,000g未満	1,000～1,500g未満	1,500～2,000g未満	2,000～2,500g未満	2,500g以上	
弘前市	107	27	68	3	11	10	0	0	0	0	4	8	3	0	0	1	15	13	66
黒石市	16	9	7	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	2	9
平川市	12	5	5	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	6
西目屋村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
藤崎町	4	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3
大鰐町	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
田舎館村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
板柳町	11	4	5	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	5
計	154	46	89	3	12	13	0	0	0	0	6	14	3	0	0	2	18	18	91

### (9) 平成28年度1歳6か月児健康診査実施状況

#### ア 一般健診

	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)
弘前市	1,126	1,086	96.4
黒石市	210	208	99.0
平川市	217	205	94.5
西目屋村	7	7	100.0
藤崎町	92	90	97.8
大鰐町	44	42	95.5
田舎館村	55	53	96.4
板柳町	71	70	98.6
管内計	1,822	1,761	96.7

\*受診率が管内平均より低い市町村は、弘前市、平川市、大鰐町、田舎館村である。

#### イ 歯科健診

	対象者数 (人)	受診者数 (人)	むし歯の総数 (本)	1人あたりのむし歯本数
弘前市	1,126	1,086	60	0.06
黒石市	210	208	3	0.01
平川市	217	209	0	0.00
西目屋村	7	7	6	0.86
藤崎町	92	90	13	0.14
大鰐町	44	42	0	0.00
田舎館村	55	52	1	0.02
板柳町	71	70	11	0.16
管内計	1,822	1,970	94	0.05

\*1人あたりのむし歯本数が管内平均より多い市町村は、弘前市、西目屋村、藤崎町、板柳町である。

(10) 平成28年度3歳児健康診査実施状況

ア 一般健診

	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)
弘 前 市	1,174	1,142	97.3
黒 石 市	243	240	98.8
平 川 市	212	208	98.1
西 目 屋 村	13	11	84.6
藤 崎 町	99	99	100.0
大 鰐 町	37	34	91.9
田 舎 館 村	52	49	94.2
板 柳 町	70	67	95.7
管 内 計	1,900	1,850	97.4

\*受診率が管内平均より低い市町村は、弘前市、西目屋村、大鰐町、田舎館村、板柳町である。

イ 歯科健診

	対象者数 (人)	受診者数 (人)	むし歯の総数 (本)	1人あたりのむし歯本数
弘 前 市	1,174	1,142	1,004	0.88
黒 石 市	243	240	372	1.55
平 川 市	212	208	159	0.76
西 目 屋 村	13	11	3	0.27
藤 崎 町	99	99	112	1.13
大 鰐 町	37	34	29	0.85
田 舎 館 村	52	49	78	1.59
板 柳 町	70	67	72	1.07
管 内 計	1,900	1,850	1,829	0.99

\*1人あたりのむし歯本数が管内平均より多い市町村は、黒石市、藤崎町、田舎館村、板柳町である。

ウ 耳鼻咽喉科 (平成 28 年度母子保健事業実施状況調査より)

(ア) 一次健診及び精検結果

	一次健診及び精検受診状況						精検結果 (延)				
	対象人員	受診実人員	受診率 (%)	要精検人員	精検受診実人員	精検受診率 (%)	難聴なし	難聴あり (疑い含む)	その他の耳鼻咽喉科領域の疾患障害		
									言語発達の障害	滲出性中耳炎	その他
弘前市	1174	1,142	97.3	241	203	84.2	203	0	16	114	95
黒石市	243	240	98.8	27	24	88.9	10	9	0	15	7
平川市	212	208	98.1	14	11	78.6	9	2	1	10	7
西目屋村	13	11	84.6	2	2	100.0	2	0	0	0	1
藤崎町	99	99	100.0	25	17	68.0	15	2	4	8	7
大鱈町	37	34	91.9	5	4	80.0	2	2	0	2	0
田舎館村	52	49	94.2	3	3	100.0	3	0	2	4	3
板柳町	70	67	95.7	33	26	78.8	23	3	1	7	8
管内計	1,900	1,850	97.4	350	290	82.9	267	18	24	160	128

\*精検受診率が管内平均より低い市町村は、平川市、藤崎町、大鱈町、板柳町である。

### 3 健康増進事業

#### (1) 保健事業費国庫及び県負担金関係

平成 27 年度保健事業費国庫及び県負担金実績報告にかかるヒアリング聴取を行った。

・日程及び場所：平成 28 年 4 月 18 日～20 日（於）弘前保健所、出席者：8 市町村担当者

#### (2) 各種検診等実施状況

##### ア 歯周疾患検診（H27年度地域保健・健康増進事業報告より） (人)

市町村名	受診者数	指導区分別人員		
		要精検	要指導	異常を認めず
弘前市	776	675	21	80
黒石市	128	122	0	6
平川市	0	0	0	0
西目屋村	0	0	0	0
藤崎町	61	40	2	19
大鰐町	26	25	0	1
田舎館村	0	0	0	0
板柳町	9	0	4	5
管内計	1,000	862	27	111

##### イ 骨粗鬆症検診（H27年度地域保健・健康増進事業報告より） (人)

市町村名	受診者数	指導区分別人員		
		要精検	要指導	異常を認めず
弘前市	392	16	92	284
黒石市	106	16	25	65
平川市	363	31	55	277
西目屋村	23	0	11	12
藤崎町	0	0	0	0
大鰐町	98	7	42	49
田舎館村	0	0	0	0
板柳町	167	19	42	106
管内計	1,149	89	267	793

ウ その他の健康増進事業 (H27 年度地域保健・健康増進事業報告より)

(ア) 健康手帳交付

(人)

市町村名	交付数 (年度中)		
	40~74 歳	75 歳以上	計
弘 前 市	0	0	0
黒 石 市	484	10	494
平 川 市	350	3	353
西 目 屋 村	0	0	0
藤 崎 町	29	9	38
大 鰐 町	69	1	70
田 舎 館 村	4	6	10
板 柳 町	0	0	0
管 内 計	936	29	965

(イ) 健康教育

(人)

市 町 村 名	個別健康教育				集団健康教育	
	高血圧	糖尿病	高脂血症	喫煙	開催回数	延参加者数
	実施者数	実施者数	実施者数	実施者数		
弘 前 市	0	0	0	0	200	8,034
黒 石 市	0	0	0	3	83	3,043
平 川 市	0	0	0	0	200	2,354
西 目 屋 村	0	0	0	0	1	54
藤 崎 町	0	0	0	0	40	761
大 鰐 町	0	0	0	0	53	636
田 舎 館 村	0	0	0	0	32	945
板 柳 町	0	0	0	0	9	319
管 内 計	0	0	0	3	618	16,416

(ウ) 健康相談

(人)

市町村名	重点健康相談		総合健康相談	
	開催回数	延参加者数	開催回数	延参加者数
弘 前 市	45	97	82	1,339
黒 石 市	15	199	83	1,495
平 川 市	19	297	55	580
西 目 屋 村	0	0	56	56
藤 崎 町	94	586	9	415
大 鰐 町	37	366	1	1
田 舎 館 村	0	0	35	676
板 柳 町	30	1,553	20	56
管 内 計	240	3,098	341	4,618

(エ) 訪問指導

(人)

市町村名	被訪問指導 実人員	被訪問指導 延人員
弘 前 市	207	223
黒 石 市	144	146
平 川 市	225	235
西 目 屋 村	29	32
藤 崎 町	937	981
大 鰐 町	19	47
田 舎 館 村	231	266
板 柳 町	158	165
管 内 計	1,950	2,095

## 4 歯科保健事業

### ・親と子のよい歯のコンクール

子や保護者及び地域社会の歯科保健への関心を高めるため、健康な歯を持つ親と子を表彰し、地域の親子歯科保健の推進を図る。

○対象者：前年度の3歳児歯科健康診査を受診した、むし歯の無い幼児とその親 275組

○開催月日：平成28年6月12日(日)

○参加者：親子44組

○コンクール結果：平川市の親子が最優秀となった。

## 5 栄養改善指導事業

### (1) 給食施設栄養管理指導事業

特定給食施設等に対し、喫食者に適切な栄養管理が実施されるよう施設を巡回して必要な指導及び助言を行う。また、給食従事者に対し研修会を開催する。

#### ア 巡回指導

	指定給食施設		特定給食施設		特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設 (特定給食施設を除く)		総計
	有	無	有	無	有	無	
栄養士の配置の有無	有	無	有	無	有	無	
巡回指導対象施設数	3	0	84	10	91	24	212
巡回指導延施設数	1		24	7	27	10	69
指導率(%)	33.3		28.6	70.0	29.7	41.7	32.5
施設来所延指導数	0		2	0	3	0	5
電話による相談数	0		6	12	2	3	23

#### イ 研修会

	1回/市町村栄養改善業務支援事業併催
開催日時	平成29年1月12日(木) 13:30~16:30
開催場所	弘前市民会館
参加施設数	11施設(学校給食センター5、学校4、保育園2)、6市町村
参加者数	27名
内容及び講師	<p>栄養教諭・学校栄養職員と市町村健康づくり担当者の連携を深め、地域ぐるみの生活習慣病予防を目指し「学校における食育と地域の健やか力～続く食育に向けた連携～」をテーマに研修会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果報告「弘前市における連携事例」 弘前市健康づくり推進課 管理栄養士、弘前市立東中学校 栄養士</li> <li>・事例紹介「保育所における食育活動と成長曲線の活用状況」 保育園みのり 調理員(栄養士)、城南保育園 管理栄養士</li> <li>・グループ討議、全体討議「続く食育に向けた連携」</li> </ul>

	2回／市町村栄養改善業務支援事業併催
開催日時	平成29年2月6日(月) 14:00～16:30
開催場所	ヒロロ(ヒロロスクエア健康ホール)
参加施設数	18施設、3市町村
参加者数	24名
内容及び講師	<p>障害者施設における肥満、生活習慣病の予防及び重症化予防や口腔機能低下への取り組みを進めるため、また新採用者への支援として「障害者施設で考慮すべき給食のあり方について～栄養管理と食形態～」をテーマに研修会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「病態(糖尿病・高血圧・脂質異常)と嚥下を考慮した給食の献立作成」 講師：健生病院 栄養科 士長 石田直子氏</li> <li>・討議「各施設における給食・栄養管理の実施状況(特に生活習慣病と嚥下困難への対応)について」</li> </ul>

	3回／市町村栄養改善業務支援事業併催
開催日時	平成29年2月9日(木) 14:30～16:30
開催場所	津軽南田温泉ホテルアップルランド
参加施設数	101施設(保育園・幼稚園・こども園)、5市町村
参加者数	111名
内容及び講師	<p>保育園・幼稚園における肥満予防・対策への取り組みを推進するため給食担当者を対象とした「幼児期からの肥満予防推進関係者研修会」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業報告「おいしい給食レシピ集の活用について」 弘前市保育研究会 給食部会長 藤田俊彦氏</li> <li>・講演「自園調理の質と責任」 東北女子短期大学 生活科 助教 中島里美氏</li> <li>・情報提供「幼児期の給食における栄養管理・食育活動について」 弘前保健所 久米田主査</li> </ul>

	4回
開催日時	平成28年6月17日(金) 14:30～16:30
開催場所	弘前市社会福祉センター
参加施設数	57施設(保育園、こども園)
参加者数	57名
内容及び講師	<p>弘前市保育研究会給食部会に働きかけ、給食部会研修会において講義とグループワークの助言を行った。</p> <p>講義「献立表の役割と食育活動の進め方」／講師：弘前保健所 久米田主査</p>

## (2) 市町村栄養改善業務支援事業

市町村健康増進計画等の企画・立案及び地域住民を対象とした栄養相談等の栄養改善業務に従事する管理栄養士等による連絡調整や情報交換、研修を行う。

### ア 連絡調整会議

	1 回目
実施月日	平成28年4月18日(月)
対象者	管内市町村行政栄養士
参加者数	7名
参加者内訳	市町村行政栄養士6名、保健所職員1名
内容	①挨拶：山中所長 ②情報交換：平成28年度栄養改善に係る事業等の紹介 食生活改善推進員に関する業務について ③情報提供：「保育所発！子ども元気スリムプラン事業」実施報告書について 県教育委員会スポーツ健康課「あおり型レシピ集」について 日本食品標準成分表2015年版について 等

	2 回目
実施月日	平成29年3月17日(金)
対象者	管内市町村行政栄養士
参加者数	8名
参加者内訳	市町村行政栄養士7名、保健所職員1名
内容	①説明：「健康津軽21(第2次)」栄養・食生活分野の進捗状況について ②情報交換：平成28年度栄養改善事業等の実施状況について ③意見交換：事業の評価方法について

イ 研修会 ※給食施設栄養管理指導事業(研修会)と併催

ウ その他市町村事業に対する支援

市町村名	具体的な内容
弘前市	弘前市食生活改善推進員養成講座 講師(1回) 生活衛生課 坂上課長 / 修了者17名
黒石市	黒石市保育所及び認定こども園連携幼児期の健康づくり事業「乳幼児期からはじまる生活習慣病予防研修会」で情報提供
大鰐町	初めて配置された行政栄養士に対し、法律や通知、他市町村の乳幼児健診における栄養指導の資料等を示し、行政栄養士に必要な知識や情報を講義した。



### (3) 食生活改善推進員の育成

#### ア 弘前保健所管内食生活改善推進員連絡協議会

管内市町村食生活改善推進員の活動について、連絡調整や情報交換、研修を行い、地域における食生活改善活動の効果的な実施を推進する。

事業	内 容	開催場所
総会	平成28年4月21日	
研修会	平成28年4月21日 講話：「ヘルシーメニューくろいし」の紹介 講師：黒石市食生活改善推進員会 会長 丹羽 英子 氏	藤崎町文化センター
	平成28年7月15日 調理実習「あおり型レシピ集」 講話「あおり型レシピ集の活用について」 講師：弘前市立西小学校 栄養教諭 阿保 由美子 氏	弘前市保健センター
	平成28年9月20日 調理実習「生涯骨太クッキング」	弘前市保健センター
役員会	平成28年7月15日	弘前市保健センター
	平成28年9月20日	
	平成28年12月5日	弘前保健所
	平成29年3月7日	弘前保健所

#### イ 管内市町村食生活改善推進員会会員数

市町村名	会員数 (人)	
	平成29年6月1日現在	平成28年4月1日現在
弘前市	165	160
黒石市	147	152
平川市	140	138
西目屋村	12	12
藤崎町	39	40
大鰐町	56	56
田舎館村	37	38
板柳町	33	25
合 計	629	621

#### ウ 管内市町村食生活改善推進員養成講座実施状況

弘前市、平川市、板柳町

#### (4) 青森のおいしい健康応援店認定事業

平成12年から実施してきた外食栄養成分表示店定着促進事業を廃止し、平成27年2月から県内（青森市除く）で新規事業として実施している。本事業は、「肥満予防」、「食塩摂取量の減少」、「野菜摂取量の増加」に配慮した食事メニューの提供を行う飲食店、惣菜店から申請があった場合に「青森のおいしい健康応援店」として認定し、県民が外食等を利用する際に適切なメニューを選択できる食環境の整備を推進する。

認定店舗数 2件

#### (5) 健康増進法及び食品表示法に基づく表示の指導及び相談

栄養成分表示や特別用途表示、誇大表示の禁止等、健康増進法及び食品表示法に基づき、事業者による食品または広告等の表示に対し相談・指導を行う。

指導及び相談件数 延べ82件

#### (6) 健康・栄養調査

##### ア 国民健康・栄養調査

###### ① 目的

健康増進法（平成14年法律103号）に基づき、国民の身体状況、栄養摂取量及び生活習慣の状況を明らかにし、国民の健康増進の総合的な推進を図るために基礎資料を得るために実施する。

###### ② 調査地区、内容等

調査地区	弘前市樹木2丁目	黒石市緑町4丁目
調査世帯数	実施43（該当63）	実施47（該当93）
被調査者	実施100（該当159）	実施105（該当191）
調査内容及び実施状況	食物摂取状況調査：37世帯 血液検査：28人（対象88人） 歩数計調査：77人（対象88人） 生活習慣調査：87人（対象88人）	食物摂取状況調査：33世帯 血液検査：18人（対象85人） 歩数計調査：62人（対象85人） 生活習慣調査：82人（対象85人）

##### イ 青森県県民健康・栄養調査

###### ① 目的

健康あおもり21（第2次）中間評価に向けたモニタリング

###### ② 調査地区、内容等

調査地区・内容については、国民健康・栄養調査と同様に（生活習慣調査の調査項目は一部違う内容の項目あり）、歯科疾患実態調査とあわせて実施した。

## 6 精神保健福祉関係

### (1) 通報状況

(人)

区 分	申請 通報	調査により診察 の必要がないと 認めた者		診 察 を 受 け た 者		
		入院	その他	精 神 障 害 者		精神障害者で なかった者
				法第 29 条該当症 状の者	法第 29 条該当症 状でなかった者	
一 般 の 申 請	0	0	0	0	0	0
警 察 官 の 通 報	5	0	0	5 ※	0	0
検 察 官 の 通 報	5	0	4	1	0	0
保 護 観 察 所 長 の 通 報	0	0	0	0	0	0
矯 正 施 設 の 長 の 通 報	5	0	2	0	3	0
病 院 の 管 理 者 の 届 出	0	0	0	0	0	0
医 療 観 察 法 の 対 象 者	0	0	0	0	0	0
計	15	0	6	6	3	0

管外1名を含む

### (2) 医療状況

#### ア 入院・通院状況

(人)

市町村別	入 院		通 院	計
	措 置	医療保護		
弘 前 市	3	1,076	2,892	3,971
黒 石 市	1	319	457	777
平 川 市	0	209	447	656
西 目 屋 村	0	8	13	21
藤 崎 町	0	93	194	287
大 鱈 町	0	82	112	194
田 舎 館 村	0	52	91	143
板 柳 町	1	77	211	289
合 計	5	1,916	4,417	6,338

## イ 通院医療状況

疾病別患者数では、統合失調症（F2）が全体の38.1%を占め圧倒的に多い。（人）

市町村別	F0 症状性を含む器質性精神障害	F1 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	F3 気分障害	F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現障害	F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	F6 成人の人格及び行動の障害	F7 精神遅滞	F8 心理的発達障害	F9 小児期及び青年期に通常発症する行動の障害等	G40 てんかん	その他 分類不明	合 計
弘 前 市	121	78	1098	806	160	6	31	42	145	59	249	97	2,892
黒 石 市	24	13	174	112	28	1	4	12	20	11	35	23	457
平 川 市	20	10	159	123	20	2	1	17	28	6	43	18	447
西目屋村	0	2	7	1	1	0	0	1	0	0	1	0	13
藤 崎 町	16	4	80	44	15	0	2	3	5	5	11	9	194
大 鱈 町	9	3	46	28	4	0	0	6	3	1	7	5	112
田舎館村	6	2	33	20	4	1	0	2	8	4	5	6	91
板 柳 町	19	5	85	41	10	0	3	3	9	2	18	16	211
合 計	215	117	1,682	1,175	242	10	41	86	218	88	369	174	4,417

### （3）精神障害者保健福祉手帳所持者数

所持者数の割合で見ると、1級32.4%、2級56%、3級11.6%となっている。（人）

市町村別	1級	2級	3級	計
弘 前 市	597	1,061	216	1,874
黒 石 市	83	177	43	303
平 川 市	100	144	35	279
西目屋村	5	3	0	8
藤 崎 町	42	78	8	128
大 鱈 町	26	44	10	80
田舎館村	26	27	5	58
板 柳 町	37	53	12	102
合 計	916	1,587	329	2,832

### （4）精神保健福祉相談（定期・随時・電話）

受診及び入院に関する相談が最も多く、次いで性格・行動上のことについてが多かった。

#### ア 相談開設日及び従事者

	定 期 相 談 【予約制】	定期外相談・電話相談
開 設 日	偶数月 第2木曜日、第3火曜日 奇数月 第2木曜日 ※受付 13:00~14:00	随 時
従 事 者	嘱託医 ・弘前愛成会病院 院長 田崎 博一 ・藤代健生病院 名誉院長 坂本 隆 ・聖康会病院 院長 齋藤 文男 保健師	保 健 師

## イ 相談内容

(人)

	相談件数	主な相談内容															平成27年度
		受診・入院について	通院・服薬指導について	生活指導について	経済的問題について	性格・行動上について	患者への接し方について	アルコールについて	薬物について	人間関係について	施設入所について	社会復帰について	福祉サービスについて	ひきこもりについて	自殺関連	その他	
合計	542	126	13	3	2	27	8	47	2	18	9	1	8	22	30	226	565
定期	40 (20)	6	1	0	0	6	2	7	1	1	0	0	1	11	0	4	42 (28)
随時	69 (56)	33	0	1	0	4	1	2	1	1	2	1	5	1	5	12	71 (53)
電話	433	87	12	2	2	17	5	38	0	16	7	0	2	10	25	210	452

\* ( ) 内の数値は実数

## ウ 定期・随時相談の相談者内訳 (延数)

相談件数	本人	家族等				
		配偶者	父・母	同胞	子	その他
109	14	10	43	11	8	27

## エ 定期・随時相談の相談経路 (件数)

相談件数	自発来所	関係機関の紹介				その他
		市町村	医療機関	警察署	その他	
109	72	7	6	13	5	6

## (5) 家庭訪問

家族の依頼や関係機関等の連絡による受診勧奨の支援が多かった。

(人)

平成28年度 訪問件数 (件)	対象者別訪問状況							支援内容 ※延件数					平成27年度 訪問件数	
	総計	一般	職親事業	アルコール	ひきこもり	社会復帰	その他	受診・入院に 向けた調整	通院・服薬指導	生活指導	家族関係調整	社会復帰		その他
延数	81 (50)	53	0	7	1	0	20	28	10	5	0	0	38	107 (64)

\* ( ) 内の数値は実数

## (6) 地域生活広域調整会議

精神障害者の地域移行及び地域定着を促進するため、管内の精神保健福祉関係者がサービスの提供体制や連携方法について協議する。

### ア 代表者による企画会議（5回）

開催日	H28. 7/5、8/29、10/3、12/1、H29. 3/15
場所	弘前保健所
メンバー	7人（精神科病院：5名、相談支援事業所2名、弘前保健所）
内容	管内の精神障がい者地域移行支援の推進に向けた意見交換

### イ 精神障害者の地域移行に関する研修会（地域生活支援広域調整会議）

開催年月日	出席者	内 容
平成 29 年 2 月 2 日 (木)	管内精神科病院、相談支援事業所、市町村等 計 55 人	①講演「精神疾患の理解～統合失調症を中心に～」 講師：弘前愛成会病院 院長 田崎 博一 氏 ②情報提供「管内の精神科病院の長期入院患者の状況等について」 弘前保健所健康増進課 ③グループワーク「なぜ地域移行は進まないのか」 助言：弘前愛成会病院 院長 田崎 博一 氏

## (7) 自殺対策事業

### ア 弘前保健所ハートケア事業（自殺未遂者支援モデル事業）

救急医療機関を受診した自殺未遂者やその家族に対し、関係機関が連携して支援を行うとともに、管内の自殺未遂者の支援体制を構築し、自殺再企図を防止することを目的に実施した。

#### (ア) 自殺未遂者支援体制検討会

開催年月日	出席者	内 容
平成 29 年 2 月 23 日 (木)	管内救急医療機関、精神科医療機関、医師会、 消防署、警察、介護支援専門員協会、地域団 体、市町村 計 31 人	関係機関（主に医療機関では連携室） に対し、事業報告及び今後の継続した 支援体制を検討

#### (イ) 個別支援

モデル病院を受診した自殺未遂者に対する個別支援

- ・対応ケース：2件（平成27年度～：1件、H28年度～：1件）

#### (ウ) 事例検討会

対応ケースの今後の支援、支援の終結時期等について検討

- ・開催月日：平成28年11月16日（水）
- ・開催場所：精神科医療機関
- ・出席者：10人（モデル病院：救急外来看護師及び連携室 PSW、精神科医療機関：主治医、外来看護師、連携室 PSW、精神保健福祉センター、保健所）

(エ) 自殺未遂者支援ケア研修

開催年月日	参加者	内 容
平成 28 年 12 月 15 日 (木)	管内救急医療機関、精神科医療機関、消防署、民間団体、市町村 計 40 人	1 講演 テーマ「支援事例を通じた自殺未遂者支援のあり方について」 講師 札幌医科大学医学部神経精神医学講座 教授 河西 千秋 氏 2 グループワーク テーマ「地域の支援体制を考える」

イ 地域特性を踏まえた自殺対策力強化事業

各地域の特性に応じた包括的な自殺対策の推進により社会全体の自殺リスクを低下させることを目的に実施している。

(ア) 地域自殺対策官民連携協働会議

※自殺未遂者支援モデル事業の自殺未遂者支援体制検討会として実施

開催年月日	出席者	内 容
平成 29 年 2 月 23 日 (木)	管内救急医療機関、精神科医療機関、医師会、消防署、警察、介護支援専門員協会、地域団体、市町村 計 31 人	関係機関（主に医療機関では連携室）に対し、事業報告及び今後の継続した支援体制を検討

(イ) 管内市町村に対する支援等

①藤崎町自殺予防対策実務者会議（2回）

- ・事業計画や事業報告、研修、事例検討による関係者間での情報交換及び意見交換

(8) 連携組織に対する支援

ア 精神障害者家族会等

家族会等組織が自立した活動を継続できるよう、地域家族会に対し、自主的な会運営の推進のために、随時相談等で対応した。

イ 精神保健福祉ボランティア

精神保健福祉ボランティア講座修了者が平成 16 年度に「リボンの会」を設立、現在会員数は 19 人で自主活動をしている。

(9) ケース処遇に関する会議

ア 精神障害者地域ケア会議

精神障害者及びその家族に対し、その状態に応じた適切な支援をするために医療機関・福祉事務所等その他関係機関と処遇について検討や協議を行った。

- ・開催回数：16回

## イ 心神喪失者等医療観察法に係るケア会議

心神喪失者等医療観察法に基づく処遇、退院後の処遇等について、医療機関、青森保護観察所、市町村等の関係機関と協議、検討を行った。

- ・ 開催回数：2回

## (10) 精神科病院に対する実地指導について

障害福祉課と同行し、精神科病院実地指導は5医療機関に対して、利用者の処遇等について指導を行った。

## (11) 津軽地域精神科救急医療システム稼働状況

救急当番病院は当地域には4病院あり、休日・夜間の精神科救急に対応している。受診にあたってはかかりつけ医療機関を優先として実施している。精神疾患のため緊急に医療を必要としている精神障害者が受療しているが、診察の結果19.5%が入院医療を必要としている。

病 院 名	平成28年度	内 訳			平成27年度
		電話のみ	来 院	入 院	
弘前愛成会病院	137	77	32	28	198
藤代健生病院	195	3	158	34	277
黒石あけぼの病院	16	6	7	3	12
聖康会病院	5	2	2	1	1
合 計	353	88	199	66	488

## (12) 津軽地域精神科救急医療システム連絡調整委員会

津軽地域の救急医療システムの円滑な運営を図るために、医師会、医療機関、警察署、消防本部をメンバーとする連絡調整委員会を開催している。

開催年月日	出席者	内 容
平成29年 2月14日 (火)	委員 9人 医師会 1 医療機関 5* 警察署 3 消防本部 1 *うち1:医師会と兼ねる	議題 (1) 津軽地域精神科救急医療システム事業実績について (2) 精神科救急医療システムの運営に係わる現状と課題について

## 7 難病関係

### (1) 指定難病の医療費助成制度

難病のうち、治療方法が確立していないなど治療が極めて困難で、症状も慢性に経過し、後遺症を残すことが少なくなく、そのうえ社会復帰が難しく医療費も高額なため、経済的な問題や介護等家庭的にも精神的にも負担の大きい疾病であり症例が少ないことから、全国的規模での研究が必要な疾病を特定疾患と定義し、そのうち56疾病を公費負担の対象としていた。

平成27年1月からは「難病の患者に対する医療等に関する法律」(難病法)が施行され、医療費助成の対象となる指定難病はこれまでの56疾病から110疾病へととなり、平成27年7月からは306疾病、平成29年4月からは330疾病となっている。





## (2) 難病患者等相談事業

### ア 医療相談

難病患者やその家族が抱える医療及び日常生活上の相談に対し、専門医等による指導・助言等を行い、在宅療養の推進を図りながら、関係者間での連携を強化し、安心・安全に療養できるためのネットワークの構築を図る。

#### ○医療相談2回実施

回	第1回	第2回
日時	H28.7.26(火) 13:30～15:30	H28.9.28(水) 13:30～15:30
場所	弘前文化センター	弘前健康福祉庁舎
対象者	管内筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者32名と家族	
参加者	25名 (内訳) 患者2名、家族6名  講師2名(神経難病医療コーディネーター、看護師(見学)、ALS協会事務局) 関係者:市町村1名、難病相談支援センター1名、保健所8名、難病訪問相談員4名	23名 (内訳) 患者4名、家族4名  講師2名(理学療法士、弘前市障害福祉係) 関係者:ALS協会事務局1名、市町村2名、地域包括支援センターケアマネ1名、保健所5名、難病訪問相談員4名
従事者	保健所次長、医師、研修医、保健師5 訪問相談員4	保健所長、保健師4、訪問相談員4
内容	1 講話 「ALSの方たちへ専門員ができること」 講師 県立中央病院 神経難病医療コーディネーター 藤田 香央里 氏  2 情報提供 「コミュニケーション機器のご紹介」 講師 日本ALS協会青森県支部事務局 重度障害者用意思伝達装置サポート技術認定員 成田 俊介 氏  3 交流会	1 講話と実技 「日常生活を過ごしやすくするためのリハビリの工夫」 講師 国立病院機構青森病院 理学療法士 鈴木 学 氏  2 情報提供 「難病の方が利用できる障害福祉サービスについて」 講師 弘前市福祉政策課 主査 玉田 桃子 氏  3 交流会

#### ○ケア会議6回実施

患者本人、家族、支援関係者によるケア会議を随時実施している。

## イ 訪問相談

医療相談に参加できない難病患者やその家族の抱える医療及び日常生活上の相談に対し、相談員等による日常生活上の相談、指導、助言及び精神的支援を行い、在宅療養の推進を図る。

### (ア) 訪問相談

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
保健所保健師 (件)	39	72	60	67
訪問相談員 (件)	142	131	118	104
計	181	203	178	171

### (イ) 打ち合わせ会

開催年月日	平成 28 年 4 月 25 日 (月)	平成 28 年 9 月 28 日 (月)	平成 29 年 3 月 6 日 (月)
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「相談員の証」交付</li> <li>・28 年度訪問相談計画</li> <li>・情報交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問実施状況</li> <li>・情報交換</li> <li>・医療相談について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・28 年度訪問相談実施状況</li> <li>・情報交換</li> </ul>

## (3) 新規特定医療受給者証交付時相談及び継続申請時相談

新規に難病と診断された患者やその家族が抱える医療及び日常生活に関する悩みに対し、特定医療受給者証の交付時を利用した相談・指導・助言及び精神的支援を行い、難病患者の在宅療養の推進を図る。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
受給者証交付時相談 (件)	131	35	80	88
継続申請時相談 (件)	1,474	1,308	15	5
電話相談 (件)	15	42	20	13
計	1,609	1,385	115	106

※平成 22 年度から継続申請時の相談を行ってきたが、H27 年度は希望により相談に応じる体制とした。継続申請時の相談をきっかけとして、継続支援につながるケースもあった。

## (4) 難病在宅ケア推進ネットワーク会議

難病患者の在宅療養の特殊性を踏まえた包括的な支援体制の構築により、難病患者とその家族が安心して療養生活を継続できるように、支援関係者間の連携の促進を図る。

開催年月日	場 所	出席者	内 容
平成 29 年 2 月 16 日 (木) 15:00~16:30	弘前市民会館	弘前市医師会、南黒医師会、健生病院、国立病院機構青森病院、弘前市立病院、黒石病院、弘前大学医学部附属病院、弘前医師会弘前地区在宅医療支援センター「そよかぜ」、訪問看護ステーション連絡協議会中南黒支部、県介護支援専門員協会津軽支部会、理学療法士会津軽支部、青森県難病相談支援センター、難病連、ALS 協会青森県支部、県立中央病院医療連携部、青森公共職業安定所、市町村障害福祉係、弘前市障害者生活支援センター、弘前保健所 計 28 名	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講話 「神経難病の進行経過と医療について」 国立病院機構青森病院副院長 高田博仁 氏</li> <li>2 情報交換・意見交換 「患者や家族が安心して在宅療養するための支援と連携」</li> </ol>

## (5) 患者会支援

同じ疾患をもつ患者やその家族が、治療や療養生活上の悩みを共有し、難病を抱えながら生活していくための仲間づくりや交流するための活動を支援する。

- ア 新規特定疾病医療受給者証交付時相談や随時相談、及び難病訪問相談員や所内保健師訪問時の情報提供
- イ 患者会活動について対象者への周知の協力。(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、等)
- ウ 後縦靭帯骨化症の患者会「まるめろの会」からの依頼により講師として情報提供。(1回)

## (6) 青森県重症難病患者在宅療養支援事業 (平成 28 年度新規)

- ・対 象：人工呼吸器を装着し、在宅療養している方
- ・内 容：①一時入院、②看護人派遣
- ・登録者：1名。(実際の利用には至らず)

## 8 石綿に係る健康相談等及び被害救済制度に関する申請状況

石綿による健康被害の特殊性にかんがみ、石綿による健康被害を受けた者及びその遺族に対し、医療費等を支給するための措置を講ずることにより、石綿による健康被害の迅速な救済を図る。

### (1) 石綿健康被害救済制度に係る申請受付状況

平成 28 年度においては、認定申請 1 件

## 9 保健師業務連絡会議

管内市町村・事業所等に勤務する保健師を対象として、保健活動に関する情報交換及び学習会を開催し、業務の円滑化を図る。

開催年月日	参加者	内 容
平成 28 年 9 月 12 日 (月)	市町村 10 人 保健所 10 人 計 20 人	1 講 話「青森県の保健師の人材育成について」 講師 青森県健康福祉部がん・生活習慣病対策課 課長代理 三浦たみ子 2 情報提供「管内の初任期・新任期保健師研修アンケートから」 3 意見交換「初任期・新任期保健師の育成の現状と課題」 4 情報交換「平成 28 年度の各市町村における重点保健活動の 実施状況及び評価について」
平成 29 年 3 月 16 日 (木)	市町村 11 人 保健所 11 人 計 22 人	1 情報交換「平成 28 年度の各市町村における重点保健活動の 実施結果及び評価について」 2 講 話 「災害時に備える保健師活動について」 講師 中南地域県民局地域健康福祉部長 山中朋子

## 10 保健師の育成支援

### (1) 保健所保健師等育成支援事業（トレーナー保健師事業）

行政機関で保健活動を経験したことのある退職保健師がトレーナー保健師として、保健所の初任期の保健師（採用1年目）が行う保健活動について支援するものである。

#### ア 打合せ及び評価会

○内容：当所及び大鰐町、田舎館村において実施。所内では、トレーナー保健師、がん・生活習慣病対策課、保健所の保健師が、事業計画、進捗状況、実施状況と今年度の振り返り、来年度の課題等について意見交換をした。大鰐町、田舎館村では、年度初めに現任教育計画について、年度末は1年間の活動評価や地域診断について検討した。

#### イ 活動日数及び内容 トレーナー保健師 2人、活動日数20日×2人＝40日

種別	日数	件数	内 容	
			保健所事業	市町村保健事業
家庭訪問	19	32	難病 12 件 結核 2 件	妊産婦 4 件、乳児 4 件 がん検診精検者勸奨 10 件
健康相談	2.5	3	難病 2 件	
健康教育	2.5	260		精神デイケア（14人） 猿賀小学校（260人）
健康診査	1	8		複合検診（4人）、乳児健診（5人）
打合せ等	15	0		
計	40	279		

### (2) 市町村における新任等保健師育成支援事業

行政機関で保健活動を経験したことのある退職保健師がトレーナー保健師として、市町村の新任等保健師が行う保健活動について支援するものである。

#### ア 対象者：黒石市保健師1名（採用1年目）

#### イ トレーナー保健師1名

#### ウ 事業日数 20.0日（28年6月8日～29年3月1日）

#### エ 内容

項 目	日数	内 容
家庭訪問	5	・延 22 件（母子 6 件、特定保健指導、医療機関・関係機関・受診勸奨・重症化予防 16 件）
健康教育	3	・延 77 人（担当地区 1 回 52 人、重点地区個別運動教室 1 回 3 人、小学校食育事業健康教育 1 回 22 人）
健康相談	3	・延 23 人（重点地区結果説明会 1 回 10 人、重点地区個別運動教室 1 回 3 人、地区の健康相談 1 回 10 人）
健康診査	3	・延 9 人（チビッコ相談、2 歳児、3 歳児健診）
事業打合せ・評価会	6	・評価会 2 回、地区診断 3 回、活動のまとめ等 1 回

オ 事業打合せ、評価会

- ・ 月日：①平成28年6月8日（水） ②平成28年10月24日（月）  
③平成29年3月1日（水）
- ・ 場所：黒石市役所、産業会館
- ・ 各回の出席者：トレーナー保健師1名、黒石市4～10名、がん・生活習慣病対策課2名、県国民健康保険連合会1～2名、保健所2名

(3) 初任期保健師及び新任期保健師研修

初任期保健師及び新任期保健師が、保健師の専門能力を発揮し、地域保健活動を展開できるよう、対人支援や保健事業実施のための基本的な実践能力を身につけるとともに、現任教育の体制づくりを推進する。

【目標】

<初任期>（1年未満）

担当業務を中心に法令や施策体系を理解し、公衆衛生の視点を持って個人の対人支援や保健事業の実施ができる。

<新任期>（1年以上5年未満）

基本的な実践能力を確実なものとして保健師活動を展開することができ、最適なサービス提供のために、関係職種、関係者を選択し、連携・調整ができる。

ア 対象者

	弘前市	黒石市	平川市	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	保健所	計
初任期	3	1	1	0	2	0	1	2	2	12
新任期	6	1	0	0	0	0	0	1	2	10
計	9	2	1	0	2	0	1	3	4	22

イ 内容 5回開催 会場：保健所ほか

開催年月日	プログラム	初任期	新任期	指導保健師	計
平成28年 8月2日 (火)	講義 ・保健所の機能と役割、公衆衛生の動向 講師：所長 山中 朋子 ・求められる保健師活動 講師：健康増進課長 三上 のり子 ・地域診断を生かした保健師活動 講師：がん・生活習慣病対策課 主幹 館田 有佳子 グループワーク（情報交換会）	11	0	6	17

開催年月日	プログラム	初 任 期	新 任 期	指 導 保 健 師	計
平成 28 年 10 月 11 日 (火)	講義 ・個別、家族支援で保健師に求められる能力、視点のあり方 ・地域診断を生かした保健師活動 弘前学院大学 教授 柳澤 尚代 氏 地域診断の発表 情報交換	0	8	3	11
平成 28 年 11 月 14 日 (月)	事例検討とグループ発表 講義・助言 ・精神疾患と発達障害を学ぶ 精神保健福祉センター 所長 田中 治	10	7	2	19
平成 28 年 12 月 19 日 (月)	事例検討 講義・助言 ・保健師とは、保健指導とは 弘前学院大学 講師 川村 泰子 氏	10	5	2	17
平成 29 年 2 月 21 日 (火)	地域診断発表会 助言と意見交換 助言者 所長 山中 朋子 がん・生活習慣病対策課長代理 三浦 たみ子	12	6	3	21

## 1 1 保健協力員の育成支援事業

市町村等が所管し育成している保健協力員等組織を対象に、活動に関する情報交換と地域の健康問題についての学習、意見交換等を行い、管内の保健協力員等の活動の活性化及び健康水準の向上に寄与することを目的に支援した。

### (1) 実施状況

#### ア 研修会

(ア) 月日：平成28年8月22日（月）

(イ) 場所：弘前市中央公民館岩木館

(ウ) 参加者：計101人（保健協力員84人、市町村担当者9人、講師1人、事務局等7人）

(エ) 内容

メインテーマ 「あなたの声掛けで 新たになん検診受診者を3人増やそう」

1 講演 「なぜ『がん検診』は必要なのか ～住民に伝えてもらいたいこと～」

講師 弘前大学医学部附属病院医療情報部 准教授 松坂方士

2 活動紹介 「私たち、こんなことをやっています」

発表者 田舎館村保健協力員会長 相馬正子

黒石市保健協力員会長 村上喜美恵

### 3 グループワーク

「新たにがん検診受診者を3人増やすために ～私ができること～」

座長 弘前保健所健康増進課長 三上のり子

県の事業説明、グループ討議・発表、まとめ・助言

#### イ 役員会

開催年月日	内 容	参 加 者
平成28年 6月13日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度事業及び決算報告について</li> <li>平成28年度事業計画及び予算(案)について</li> <li>その他</li> </ul>	保健協力員 8人 市町村担当者 8人 事務局 4人 計 20人
平成29年 2月6日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度事業及び決算報告について</li> <li>平成29年度事業計画について</li> <li>その他</li> </ul>	保健協力員 8人 市町村担当者 8人 事務局 4人 計 20人

#### (2) 管内市町村保健協力員等の設置状況

(平成28年4月現在)

市町村名	名称	人数 (人)			任期/組織名	担当部局
		男	女			
弘前市	健康づくりポーター	345	48	297	2年/健康づくりサポーター連絡協議会	健康づくり推進課
黒石市	保健協力員	224	8	216	2年/保健協力員会	健康推進課
平川市	保健協力員	196	6	190	2年/保健協力員会	健康推進課
西目屋村	保健協力員	21	0	21	2年/(組織なし)	住民課
藤崎町	健康推進員	126	1	125	2年/健康推進員会	福祉課
大鰐町	保健協力員	60	0	60	2年/保健協力員会	保健福祉課
田舎館村	保健協力員	61	0	61	2年/保健協力員会	厚生課
板柳町	保健衛生協力委員	90	43	47	2年/(組織なし)	健康福祉課
計		1,123	106	1,017		

## 1.2 医療技術者等の研修・実習

養成機関等の依頼により、看護学生等が、保健所の機能と役割を理解し、地域保健活動及び公衆衛生看護活動、または、公衆栄養活動の実際を学ぶことを目的として実施している。

大学名	研修期間	日数 (日)	人数 (人)
弘前学院大学看護学部	平成28年5月31日(火)～6月3日(金)	4	7
弘前大学医学部保健学看護学専攻	平成28年6月22日(水)～6月28日(金)	5	6
弘前医療福祉大学保健学部看護学科	平成28年6月14日(火)	1	79
	平成28年10月5日(水)	1	14
青森県立保健大学健康学部栄養士学科	平成28年6月20日(月)～6月24日(金)	5	3
計 4校4学部		延16	延109



### 1 3 包括ケアシステム推進事業

複雑・多様化する県民の保健・医療・福祉ニーズに、的確に対応することが求められていることから、県基本計画の最重要戦略「あおり型セーフティネット」に位置付けられる「保健・医療・福祉包括ケアシステム」の構築に向け、二次保健医療圏及び市町村の実情に応じた体制整備について協議検討を行うこととしている。

#### 【実施状況】

	実施内容	開催年月日及び場所	内 容
1	地域医療・地域介護連携担当者意見交換会	平成 28 年 10 月 15 日（土） 13:30～17:00 岩木文化センターあそべる 参加者：217 人	①情報提供 「津軽地域のがんについて」 ②グループ討議 「療養場所の選択と地域連携」
2	知事との包括ケアシステムに係る現地懇談会	平成 29 年 1 月 16 日（月） ①平川市保健センター ②西目屋村中央公民館	①平川市における自殺予防対策 ②西目屋村（村民）に合った保健活動の取組

### 1 4 医療介護連携調整実証事業

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、関係機関が連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築するため、市町村の在宅医療・介護連携推進事業の取組の支援として、当管内における入退院ルールを平成 27 年度より策定し運用している。モニタリング調査で運用状況を把握し、地域課題を整理し、ルールの修正等・周知を行った。

会議名・実施日	参加者（職種・人数）	協議内容
第 1 回市町村担当者会 平成 28 年 11 月 28 日（月）	・市町村担当者 8 人 ・地域包括支援センター 14 人 ・弘前地区在宅医療・介護連携支援センターそよかぜ 1 人 ・県高齢福祉保険課 1 人 ・保健所 8 人 計 32 人	1 情報提供 (1) 入退院調整ルールモニタリング結果について (2) 在宅医療・介護連携推進事業の実施状況について 2 検討事項 (1) 今後のスケジュール及び入退院調整ルールの修正点について (2) ケアマネ代表者の選出について
病院・ケアマネ協議 平成 29 年 1 月 10 日（火）	・病院関係（18 病院） 30 人 ・精神科病院（4 病院） 7 人 ・介護支援専門員協会支部 2 人 ・市町村 8 人 ・地域包括支援センター 13 人 ・居宅介護支援事業所 8 人 ・保健所 8 人 計 76 人	1 情報提供 (1) 入退院調整ルールモニタリング結果について (2) 病院アンケート結果について 2 意見交換「効果的入退院調整ルールの運用に向けて」
第 2 回市町村担当者会議 平成 29 年 2 月 7 日（火）	・市町村担当者 8 人 ・地域包括支援センター 13 人 ・弘前地区在宅医療・介護連携支援センターそよかぜ 1 人 ・県高齢福祉保険課 2 人 ・保健所 7 人 計 31 人	1 検討事項 (1) 入退院調整ルールの修正点について (2) 今後のスケジュールについて (3) その他